

会員の広場



鎌倉円覚寺での奉仕活動のご利益

平 忠雄（東京）

東洋経済創立115周年の連載「湛山を語る」には、石橋湛山の思想哲学は仏教・プラグマティズム・自由主義の三つに集約される。自伝「湛山回想」によると、実父は日蓮宗の僧侶であったが、湛山は11歳の時山梨県に在る長遠寺に預けられた。その後8年

間、実父の方針である「未練を家に残さしめ師のしつけにそむくことがあってはならない」によって実家と隔絶された。それは「私にとって誠に幸せであった」と述懐している。閉鎖的かつ静寂な環境下で、公案の探求や実践三昧に明け暮れる修行僧と寝食を共にした体験が、その後の湛山が示した政治・経済・教育など幅広い分野に対する類い稀なる洞察力、正論追究、断固不屈の胆力の形成に多大な影響を及ぼしたものと思われる。

私は20年程前50歳過ぎに、経済倶楽部の会員になったが、鎌倉円覚寺松嶺院の門守をさせていただく時期に重なる。時折開催された座禅会・茶会にも加わった。ご老師興俊哲住職は3年前83歳で他界された。幼少時僧籍に

入って以来、仏道修行一筋の人生であられたが、姿勢正しく巖然泰然、警咳に接する機会も多々あった。時の流れを大切に受け止めて自然に溶け込み、ご住職自らが丹精を込めて育てた四季折々の日本古来の草花を観るのも楽しみであった。お寺とのお付き合いを通じて、幾つかのご利益をいただいた。

一つは、毎日の朝食を作るようになった事である。早朝、修行僧が、心を整えるために食事準備や掃除に精を出している姿を目にしたからである。

二つ目は、座禅で学んだ数息観である。深呼吸を繰り返す中、1から10まで単純に数を数える事で頭の中の雑念を取り除く訓練である。頭を空っぽにすると、スッキリとして物

事を正しく判断出来る気がする。また、深呼吸には心を鎮める効果があり健康にも良い。

三つ目は、ご老師が亡くなられる10日程前に頂いた戒名（法名）のことである。

「誠徳院朴山宗忠居士」朴（飾り気なく）忠（心を込めて）と付言があった。これからの人生の道標にしたいと感謝している。法名を頂いてから問もなくして、関係者に辞世の書が届いた。

「万世如意 有難うございました」

個人自立を基礎にして、常に折りと感謝と奉仕を忘れず、自由自在にプラグマ（行為）を重視し、真理を探究した死生観は、湛山思想哲学の髄脈に重なっていると言う思いを深くしている。